

成田山拝礼碑

匠 瑗 探 訪

182

荻野（平和地区）は、念仏川を挟んで旭市に隣接しています。川の縁に「成田山拝礼」と深く刻まれた高さ120センチほどの石碑があります。

成田山新勝寺（成田市）の参拝記念に建てられたもので、新勝寺の講（信仰集団）を知りたいと思っていたところ、今春、新勝寺の五井野照秀さんから「成田講と寺社参詣」と題した冊子が送られてきました。

それによると、新勝寺の参詣者のうち、団体のものを「講（講社）」といい、成田講は、江戸時代

中期・元禄ごろから成田山不動明王を信仰する人たちによって各地に数多く結成されたといえます。

荻野の成田山拝礼碑は、裏面の文字から明治28（1895）年7月に、平和村荻野（同村は明治22年に成立）の川口定右衛門が願主となり「永喜講社」が建てました。

成田講は、明治9（1876）年には2738講存
在し、この頃には講を受け入れる宿が新勝寺門前周辺に十分そろっていたとされます。永喜講社の講員もそうした宿に泊まり、平和村と成田山を徒

歩で往復したのでしょう。

この石碑は、道標も兼ねていて、仮名文字も使
い浅く刻まれています。

正面に「此方このほうおぎの（荻野）、ひら木（平木）、福岡町（八日市場町の旧町名）、東京」とあります。現在は、正面が北向きになっていますが、念仏川改修工事の際に方向を誤って設置されたのかもしれない。本来は荻野集落を向いていたのでしょう。右側面に「此方、いづみ川（泉川・旭市）、旭町、銚子町」、左側面に「此方、大つか原（大塚原・旭市）、しいな内（椎名内・旭市）、飯岡町（現在は旭市）」とあります。

永喜講社がその後いつまで存在したかは不明ですが、この碑は市内でただ1基の成田山参拝記念碑で貴重といえます。

（市文化財審議会委員・依知川雅一）

問 秘書課 広報班
電話 ☎ 73・0080



荻野の成田山拝礼碑